

第5回「東ティモールの平和と外交&国連でのインターンシップ」

第27回「難民支援の動向とHDPネクサス（人道と開発と平和の連携）&学生研究報告」

「国際平和と人権・人道法研究会」による公開フォーラム

藤井 広重

Hagiya Corredo Magda Yukari（4年）、花塚ひとみ（2年）

これまでの取り組みと2023年度活動概要

国際平和と人権・人道法研究会が開催する公開フォーラムの特徴は、専門家からの講義だけではなく、学生の主体的な取り組みをフォーラム内で紹介し、聴講した学生の潜在的な興味関心を行動へと結びつけることにある。フォーラム後には分野に関心を持つ学生と専門家との座談会を開催することで、インタラクティブな学びの場も提供しており、参加者が自身のキャリア形成を真剣に考えるきっかけを作ってきた。

以下、これまでに開催してきた学生と専門家との講演会および座談会について本年報に掲載され、公開中の報告である。

■藤井広重 他（2022）「アフガニスタンと平和」シンポジウム① 紛争下におけるキャリア形成 一平井礼子氏と宇大生による座談会」『宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター年報』第14号、51-63頁。

■藤井広重 他（2021）「SDGsの達成に向けた国際機関の活動とキャリア形成の視点：国際機関の職員（境悠一郎氏、田邊宙大氏）と宇大生による座談会」『宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター年報』第13号、72-82頁。

■藤井広重 他（2020）「平和と公正な社会（SDG16）の実現を目指して 一野口元郎国際司法協力担当大使と宇都宮大学国際学部生による座談会」『宇都宮大学国際学部多文化公共圏センター年報』第12号、14-22頁。

学生のインターンシップ等の課外活動での経験についても積極的に共有してきた。以下のとおり本年報でも公開している。

■藤井広重・中村真（2023）「国際学部の新しい強みへ、国際人道法大会での準優勝—2022年度国際人道法模擬裁判・ロールプレイ大会に関する報告会—」『宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター年報』第15号、46-55頁。

■藤井広重 他（2023）「国際協力機関インターンへのプロセスと活動 2022年度学生座談会」『宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター年報』第15号、161-170頁。

■藤井広重 他（2022）「国際協力機関インターンへのプロセスと活動 2021年度学生座談会」『宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター年報』第14号、258-265頁。

2023年度に国際平和と人権・人道法研究会は、専門家を招いた公開フォーラムを2回開催した。1回目は、2023年6月3日に外山聖子氏を招き、「東ティモールの平和と外交」と題する講演と学生とのキャリアをテーマにした座談会を実施した。また、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）でのインターンシップ（2023年2月から同年7月）を経験した国際4年Hagiyaも活動報告をおこなった。

2回目は、2024年1月19日に、古本秀彦氏を招き、「難民支援の動向とHDPネクサス（人道

と開発と平和の連携)」と題する講演と難民支援のキャリアに関する座談会を実施した。また、学生サークル宇都宮国際平和と司法研究会（UIPJ）の2年生達により「国連平和維持活動と緊急人道支援活動の関係性に対する考察～なぜICRCはPKOと協働しないのか、UNHCRとの比較を通して～」と題した研究報告があり、これに対し古本氏から勤務経験に基づく貴重なコメントを頂いた。

本稿では紙面の都合で、第5回フォーラムについての報告を取り上げる（両フォーラムの座談会は別途ワーキングペーパーにて公開を予定している）。まず、第5回フォーラム冒頭に国際学部長の中村真から挨拶があり、その後、外山氏からは国際平和協力分野でのキャリア形成、東ティモールの歴史と現在の状況まで、詳細にお話いただいた。ユーモアを交えた親しみやすい説明に、学生たちも大変感銘を受け、講義後も質問が絶えなかったことが印象的であった。



外山聖子氏、中村真学部長、運営の学生達

講演の感想 — 花塚ひとみ

今回の外山様によるご講演では、はじめに東ティモールの歴史的・地理的概要の説明がなされた。次に、外山様が独立後の不安定な東ティモールで経験された人道・教育支援の現場についてお話された。最後に、東ティモール大使館での5年間に及ぶ勤務経験から大使館の仕事内

容、そして、現在、同大使館が取り組んでいる支援活動や対日理解促進交流会などの異文化交流についてお話いただいた。

東ティモールの概要について説明して下さった際には、東ティモールという国が様々な国に統治されてきた歴史的背景を持ち、2002年に独立を果たしてから東ティモール国内での治安は不安定であり、その中で実施されてきた人道支援や教育支援は容易なことではなかったと知った。また、支援を行う際、UNCHRなどの国連機関との関わりや避難所にて争いが起きないようにするための工夫は印象深かった。たとえば、避難所内で開催された大人から子どもを対象とした様々なリクリエーションや不平等が生まれにくいような食糧配布といったものが挙げられていた。

外交に関するお話も示唆に富むものであった。東ティモール政府の外交や東ティモールと日本との外交政策、中でも、外山様が専門とされてきた広報文化外交の取り組みを具体的なエピソードや事例に言及されながら紹介いただき、いかに大変な仕事であるか、また、成果としてみえるときの喜びを知り、率直に驚いた。

質疑応答の際には学生から外山様のキャリアに関する質問が多くあった。外山様はそれぞれの質問に対し、ご自身の知識や経験に基づき、かつ我々の疑問や興味に真摯に向き合いながら、丁寧にご回答くださった。外山様とのコミュニケーションの中で、大使館で働くことに対する理解や関心、また現地での人道支援・教育支援実施の困難さと支援の必要性をより深く理解することができた。今回の貴重な機会を、今後のキャリアや人生において生かし、もっと成長したいと感じた。

ハギヤさんのUNCHRでの活動報告では、国連でのインターン採用プロセスやUNHCRのミッションについても説明され、関心とともに理解が深まった。また、経験された業務やハギ

ヤさんご自身の成長や学びについて、さらにインターンシップを通じて得たスキルや知識、そして、UNCHRがどのような活動を展開しているかを具体的に伝えてくださった。このようなハギヤさんのインターンに対する熱意と取り組みの姿勢は、我々の大きなモチベーションとなった。国連にてインターンとして採用されるのは簡単ではないが、今後の具体的な目標となった。

国連難民高等弁務官事務所でのインターンシップについて —Hagiya Corredo Magda Yukari

私は、活動報告のセッションにてUNHCR駐日事務所広報室でのインターンについてお話した。まず、UNHCRのミッションと活動について紹介し、国連機関はどのように難民支援を行っているかについて話した。外山様の講演会の中でも難民キャンプでのUNHCRの活動が取り上げられていたように、UNHCRは幅広く活動している。それは、紛争地のような現場だけではなく、日本にある駐日事務所も難民支援のための様々な活動に取り組んでいることを知って欲しかったからである。

次に、インターンに至った大学での学びについても紹介した。特に、赤十字国際委員会（ICRC）主催の国際人道法ロールプレイ大会と模擬裁判大会に参加したことで得られたスキルについて説明した。国連のような競争の激しいインターンシップではユニークな経験や業務に貢献できる人材だとアピールすることが重要である。国際人道法の大会などで実績を残すことは非常に有益である。

最後に学生コメンテーターから二つの質問をいただいた。一つ目はインターンを通しての、

反省や学びに関して。約半年間インターンをさせていただき、反省していることとしては、職員に相談したり、話を聞いたりすることをもっと積極的にすべきだったと思う。職員の方々は、大変忙しいのでなかなか難しいが、やはり職員の方と直接話すことによって、自身のキャリアや国際協力の知識は非常に深まる。あまり恐縮しすぎずに、話かけることも大事であったと気づいた。

二つ目の質問は後輩に対するアドバイスであった。私からできるアドバイスとしては、国連のインターンに応募するなら準備を早めること、そして、何か自身が得意な分野を武器として持ち、アピールすることだ。国際機関では、インターンでも様々なことが求められ、組織に貢献することが大事である。早めに自身の武器を磨き、計画をたててすすめる必要がある。藤井研究室ではお願いすれば先生が事前に応募書類を確認して下さり、指導を受けることができる。同じ研究室には、大使館に勤務したり、国際機関や国際NGOでインターンを経験したりしてきた大学院生の先輩方もいる。宇大の中にも貴重な機会がある。この環境を生かすべく自ら動くことが大事である。



外山聖子氏と座談会に参加した学生達

東ティモールの平和と外交



日時：2023年6月3日（土曜） 13時00分 - 15時00分

場所：宇都宮大学峰キャンパス 5B11教室

6月3日に外山聖子氏をお招きし、東ティモールの大使館でのご経験を中心にご講演いただきます。この機会に国際平和に係る実務の現場についての理解を深めましょう！

➤ プログラム

司会：西村 実悠（国際3年）

開会の挨拶：中村真 国際学部長

基調講演「東ティモールの平和と外交」

活動報告「UNHCRでのインターンシップ」ハギヤ・ユカリ（国際4年 藤井ゼミ）

講演者：外山 聖子（とやませいこ）

在東ティモール日本国大使館職員およびピースウィンズ・ジャパン（出向）東ティモール現地調整官として、首都ディリに約5年間駐在し、緊急・人道支援や紛争後の教育支援に従事。内閣府国際平和協力本部事務局で南スーダン、ハイチ、東ティモールのPKO派遣要員の研修に携わる。米国コロンビア大学教育大学院国際教育開発学（平和教育・紛争解決専攻）修了。



コメンテーター：堤 大愛（国際3年） 香野 大地（国際3年）

フロアからの質疑応答

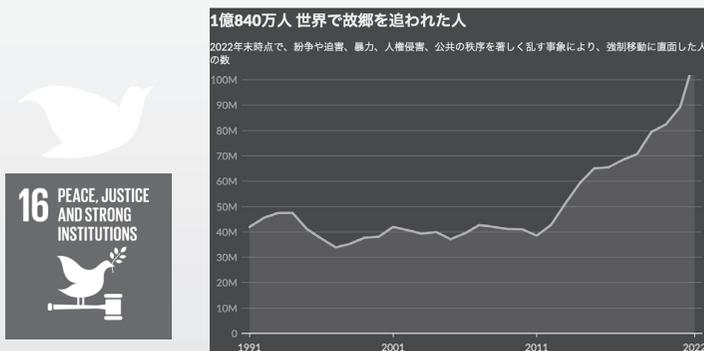
閉会の言葉・総括：藤井広重 国際学部准教授

本公開セミナーは、「武力紛争と人権」、「International Protection of Human Rights」および「国際法演習」の講義の一環として開催されますが、一般の方の参加も歓迎いたします。先着順とし、参加申し込みは必要ありません。

主催：宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター 国際平和と人権・人道法研究会

問い合わせ先：藤井広重 (fujiih[[@](mailto:fujiih@cc.utsunomiya-u.ac.jp)]cc.utsunomiya-u.ac.jp)

難民支援の動向とHDPネクサス



UNHCR・グローバルトレンドズ・レポート2022より引用
(https://www.unhcr.org/jp/global_trends_2022)

日時：2024年1月19日（金曜） 14時20分 - 15時50分

場所：宇都宮大学峰キャンパス 5B21教室

1月19日に古本秀彦氏をお招きし、難民支援と国際機関での勤務経験を中心にご講演いただきます。この機会に国際平和に係る実務についての理解を深めましょう！

▶ プログラム

司会：高橋世羽（国際2年） 吉田桜華（国際1年）

■ 基調講演「難民支援の動向とHDPネクサス（人道と開発と平和の連携）」

講演者：古本秀彦（ふるもと ひでひこ）

サセックス大学現代紛争平和学修士。JICA、広島平和構築人材育成センター、UNHCRイラン事務所、イエメン事務所、内閣府国際平和協力研究員、UNHCR駐日事務所に勤務。2020年から23年までUNHCR職員としてJICAへ出向し、UNHCR-JICA連携を担当。



イラクにて

■ 学生研究発表

「国連平和維持活動と緊急人道支援活動の関係性に対する考察
～なぜICRCはPKOと協働しないのか、UNHCRとの比較を通して～」
報告者：鈴木望夢、横井春香、橘海翔、佐藤野乃果（UIPJ/国際2年）

■ 専門家からのコメント

■ フロアからの質疑応答

■ 閉会の言葉・総括：藤井広重 国際学部准教授

本公開セミナーは、「グローバル実践力基礎演習II」、「国際法」および「国際法ゼミ」の講義の一環として開催されますが、一般の方の参加も歓迎いたします。来校の際は公共交通機関をご利用下さい。先着順とし、参加申し込みは必要ありません。

主催：宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター 国際平和と人権・人道法研究会
問い合わせ先：藤井広重 (fujiih@cc.utsunomiya-u.ac.jp)